令和７年度用

日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる

これからの 数学１

**観点別評価規準例**

数研出版

１年１章「正の数と負の数」 ＊ほかに，章末で２時間を計上しています。

① 正の数と負の数

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 符号のついた数 | p.12  ～17 | 正の符号，負の符号  正の数，負の数の表し方  自然数の定義  ちがいを符号を使って表す  位置を符号を使って表す  移動を符号を使って表す  反対の性質をもつ数量を表す | －，マイナス，  ＋，プラス， 正の符号，  負の符号，  正の数，負の数，  自然数 | ○負の数の必要性と意味について，それらが使われている具体的な場面に結びつけて理解している。  ○基準とのちがいや反対の性質をもつ数量を，符号のついた数で表すことができる。 | ○基準のとり方と表される数の関係について考察し，説明することができる。 | ○負の数の必要性と意味を考えようとしている。 | 3 |
| ２ 数の大小  確認問題 | p.18  ～22 | 数直線  数の大小を不等号を使って表す  絶対値  数の大小 | 原点，正の方向，  負の方向，絶対値 | ○正の数と負の数を数直線上に表すことができる。  ○正の数と負の数の大小関係を不等号を用いて表すことができる。 | ○数の範囲を負の数に拡張した数直線について考えることができる。  ○正の数と負の数の大小関係について，数直線と絶対値をもとに説明することができる。 |  | 2 |

② 加法と減法

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 加法 | p.23  ～28 | 符号が同じ数の和  符号が異なる数の和  正の数，負の数の加法のまとめ  0との和  加法の計算法則 | 加法，  加法の交換法則，  加法の結合法則 | ○正の数と負の数の加法の計算方法を理解し，その計算ができる。  ○正の数と負の数の加法において交換法則と結合法則が成り立つことを理解し，法則を利用した計算ができる。 | ○符号や絶対値に着目して，加法の計算方法をまとめることができる。 | ○正の数と負の数の加法の計算方法を考えようとしている。 | 3 |
| ２ 減法  練習問題 | p.29  ～31 | 正の数をひく計算  負の数をひく計算  正の数，負の数の減法のまとめ  0との差  小数，分数の計算 | 減法 | ○正の数と負の数の減法の計算方法を理解し，その計算ができる。 | ○既習の計算をもとにして，減法の計算方法を考察し，説明することができる。  ○正の数と負の数の減法の結果についてまとめ，説明することができる。 | ○負の数を含めた減法の意味を考えようとしている。 | 2 |
| ３ 加法と減法の 混じった式  確認問題 | p.32  ～34 | 正の項，負の項  項を並べた式の計算  加法と減法の混じった式の計算 | 項，正の項， 負の項 | ○加法と減法の混じった式の計算方法を理解し，その計算ができる。 | ○加法と減法を統合的にみて，加法と減法の混じった式を正の項や負の項の和として捉えることができる。 | ○加法と減法を統合的にみて，減法を加法の計算と捉えようとしている。 | 2 |

③ 乗法と除法

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | **時数** |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 乗法 | p.36  ～43 | 正×正，正×負　の意味  負×正，負×負　の意味  正の数，負の数の乗法のまとめ  乗法の計算  小数，分数の乗法  －1や1との積  乗法の計算法則  積の符号と絶対値  累乗の指数を使って表す  累乗の計算 | 乗法，  乗法の交換法則，  乗法の結合法則， 2乗，3乗，累乗，  平方，立方，指数 | ○正の数と負の数の乗法の計算方法を理解し，その計算ができる。  ○正の数と負の数の乗法において交換法則と結合法則が成り立つことを理解し，法則を利用した計算ができる。 | ○東西の移動をもとにして，乗法の計算方法を見いだし，説明することができる。  ○乗法と積の符号のきまりを見いだし，説明することができる。 | ○正の数と負の数の乗法の計算方法を考えようとしている。 | 4 |
| ２ 除法  確認問題 | p.44  ～47 | 除法の意味  正の数，負の数の除法のまとめ  除法の計算  小数の除法  正の数，負の数の除法と分数  逆数  除法を乗法になおして計算する  乗法と除法の混じった式の計算 | 除法，逆数 | ○正の数と負の数の除法の計算方法を理解し，その計算ができる。  ○逆数を用いて，除法を乗法に変換して計算することができる。 | ○既習の計算をもとにして，除法の計算方法を考察し，説明することができる。  ○乗法と除法を統合的にみて，逆数を用いて除法を乗法の計算と捉えることができる。 | ○正の数と負の数の除法の計算方法を考えようとしている。  ○乗法と除法を統合的にみて，除法を乗法の計算と捉えようとしている。 | 2 |

④ いろいろな計算

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | **時数** |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 四則 | p.48  ～51 | 計算の順序  加法と乗法の混じった式の計算  四則の混じった式の計算  分配法則とその利用  数の集合  数の集合と四則計算 | 四則，分配法則，  集合 | ○四則の混じった式の計算順序を理解し，その計算ができる。  ○正の数と負の数の計算において分配法則が成り立つことを理解し，法則を利用した計算ができる。 | ○数の集合とその集合における四則演算の可能性について捉え直すことができる。 |  | 2 |
| ２ 素因数分解 | p.52  ～54 | 素数，素因数の意味  素因数分解 | 素数，素因数，  素因数分解 | ○素数，素因数の意味を理解している。  ○自然数を素因数分解することができる。 | ○自然数を素因数分解するとき，分解の順序を変えても，整理すると結果は同じ素数の積になることを見いだすことができる。 |  | 1 |
| ３ 正の数，負の数の利用  確認問題 | p.55  ～56 | 基準を決めて平均を求める (仮平均)  負の数で表されたことがらの意味を読み取る |  | ○正の数と負の数を用いて変化や状況をわかりやすく表したり，能率的に処理したりすることができる。  ○身のまわりの事象を，正の数と負の数を用いて整理して表すことができる。 | ○負の数を適切に用いて基準を決め，平均を求めることができる。  ○正の数と負の数を具体的な場面で利用することができる。 | ○正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。  ○正の数と負の数を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 | 2 |

１年２章「文字と式」 ＊ほかに，章末で２時間を計上しています。

① 文字と式

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 文字を使った式 | p.62  ～65 | 文字の必要性と意味  規則性と文字式  数量を文字式で表す  計算法則を文字式で表す | 文字式 | ○文字を用いることの必要性と意味を理解している。  ○文字式で表された数量が，操作の方法を表しているとともに，操作の結果も表しているということを理解している。 | ○規則的に変化する事象を，文字式を使って一般的に表すことができる。  ○1種類の文字で表された式と2種類の文字で表された式のちがいを考察し，説明することができる。 | ○文字を用いることの必要性と意味を考えようとしている。 | 2 |
| ２ 文字式の表し方 | p.66  ～69 | 積の表し方  同じ文字の積の表し方  商の表し方  積と商の混じった式の表し方  いろいろな式の表し方  文字式を×，÷を使って表す |  | ○文字を用いた式における乗法と除法の表し方を理解し，表し方にしたがって表すことができる。 |  |  | 2 |
| ３ いろいろな数量の表し方 | p.70  ～72 | 長さや代金に関する文字式  割合に関する文字式  速さや道のりに関する文字式  単位を揃えて表す  円周の長さ | π | ○文字を用いて数量の関係や法則を簡潔に表すことができる。  ○単位が異なる数量の和や差について，単位を揃えて1つの式に表すことができる。 |  |  | 2 |
| ４ 式の値  確認問題 | p.73  ～76 | 代入の意味と方法  1種類の文字の式に代入  2種類の文字の式に代入 | 代入する，式の値 | ○文字を用いた式の文字にいろいろな数を代入して式の値を求めることができる。 | ○求めた式の値を具体的な場面と結びつけて考えることができる。  ○2種類の文字を含む式の値の求め方を考え，説明することができる。 |  | 2 |

② 文字式の計算

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 1次式の加法，減法 | p.77  ～80 | 項と係数  式をまとめる（文字の項のみ）  式をまとめる （文字の項と数の項）  1次式の加法  1次式の減法 | 項，係数，  1次の項，1次式 | ○1次式の加法と減法の計算方法を理解し，その計算ができる。 | ○1次式の加法と減法について，数の計算と関連づけて考え，説明することができる。  ○1次式の加法と減法について，具体的な場面と関連づけて考え，説明することができる。 | ○1次式の加法と減法の計算方法を考えようとしている。 | 2 |
| ２ 1次式と数の乗法，除法  確認問題 | p.81  ～85 | 1次式と数の乗法  1次式と数の除法  項が2つある1次式と数の乗法  項が2つある1次式と数の除法  分数の形の式と数の乗法  いろいろな1次式の計算 |  | ○1次式と数の乗法と除法の計算方法を理解し，その計算ができる。 | ○1次式の乗法と除法について，数の計算と関連づけて考え，説明することができる。 | ○1次式と数の乗法と除法の計算方法を考えようとしている。 | 4 |

③ 文字式の利用

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 文字式の利用 | p.87  ～88 | 文字式の表す数量  文字式の利用 |  |  | ○文字式が表す数量を，具体的な数におきかえて考えることができる。  ○文字式を具体的な場面で利用することができる。 | ○文字式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。  ○文字式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 | 1 |
| ２ 関係を表す式  確認問題 | p.89  ～91 | 等式の意味  不等式の意味  以上，以下，未満  等式や不等式の表し方  等式や不等式が表す関係 | 等式，左辺，右辺，両辺，不等式，  （不等式の）左辺，右辺，両辺，  ≧，≦ | ○数量の相等関係を等式で表したり，等式から数量の相等関係を読み取ったりすることができる。  ○数量の大小関係を不等式で表したり，不等式から数量の大小関係を読み取ったりすることができる。 |  |  | 2 |

１年３章「1次方程式」 ＊ほかに，章末で２時間を計上しています。

① 1次方程式

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 方程式とその解 | p.96  ～97 | 等式を成り立たせる文字の値  方程式の解の意味 | 方程式，解，解く | ○方程式の必要性と意味を理解している。  ○方程式の解の意味を理解している。 |  | ○方程式の必要性と意味を考えようとしている。 | 1 |
| ２ 等式の性質  練習問題 | p.98  ～101 | 等式の性質  両辺に同じ数をたして解く  両辺から同じ数をひいて解く  両辺に同じ数をかけて解く  両辺を同じ数でわって解く  等式の性質を使って方程式を解く |  | ○等式の性質をもとにして式を変形し，解を求めることができる。 | ○等式の性質をもとにして方程式を解く方法について考察し，説明することができる。  ○等式の性質の[1]と[2]，[3]と[4]をそれぞれ統合的にみることができる。 | ○方程式の代数的な操作のよさを理解し，変形しようとしている。 | 2 |
| ３ 1次方程式の解き方  練習問題 | p.102  ～107 | 移項を利用した方程式の解き方  2つの項を同時に移項して解く  かっこのある1次方程式  係数に小数をふくむ1次方程式  係数に分数をふくむ1次方程式  1次方程式を解く手順のまとめ | 移項，1次方程式，分母をはらう | ○移項の意味と手順を理解し，能率的に解を求めることができる。 | ○式変形の過程を考察し，方程式を解く一般的な手順をまとめることができる。 | ○いろいろな方程式を能率的に解く方法を考えようとしている。 | 3 |
| ４ 比例式  確認問題 | p.108  ～109 | 比例式  比例式を満たすxの値を求める  比例式の性質を利用してxの値を求める | 比例式 | ○比例式を比の値にもとづいて変形し，方程式とみることができる。  ○簡単な比例式について，式を成り立たせるxの値を求めることができる。 |  |  | 2 |

② 1次方程式の利用

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 1次方程式の利用  確認問題 | p.111  ～116 | 1次方程式をつくる手順と解き方  代金や所持金の問題  過不足に関する問題  速さに関する問題  1次方程式の立式のくふう |  | ○方程式を利用して具体的な場面における問題を解決する手順を理解している。  ○求めた解がもとの問題の答えとして適切なものであるかどうかを確かめることができる。 | ○方程式を具体的な場面で利用することができる。  ○求めたいもの以外の数量を文字でおき，問題を解決することができる。 | ○方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。  ○方程式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 | 5 |

１年４章「比例と反比例」 ＊ほかに，章末で２時間を計上しています。

① 比例

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 関数 | p.122  ～126 | 関数の意味  xとyの関係と表  変数，定数，変域  不等式による変域の表し方 | yはxの関数，  変数，定数，  変域 | ○関数の意味を理解している。  ○変数，定数，変域の意味を理解している。 | ○具体的な事象から関数関係を見いだし，見いだした関係について説明することができる。 |  | 2 |
| ２ 比例 | p.127  ～130 | 比例の意味  比例定数の意味  変域を負の数に広げた場合の比例の関係  比例の式の求め方 | 比例する， 比例定数 | ○比例の関係を式に表すことができる。 | ○比例の関係をまとめた表から，とに関するいろいろな関係を読み取ることができる。  ○比例の関係を負の範囲に拡張し，関数関係として捉え直すことができる。  ○xとyの関係を表に整理して，変化と対応を調べることができる。 | ○比例の関係を，変域や比例定数が負の数の場合に広げて考えようとしている。 | 2 |
| ３ 座標 | p.131  ～133 | 座標に関する定義と意味  座標平面  点の読み取り  点を座標平面上に表す | x軸，横軸， y軸，縦軸， 座標軸，原点，  x座標，y座標，  座標，座標平面 | ○座標平面上の点の位置を読み取ったり，座標として表したりすることができる。 | ○負の値をとる座標を表すための座標平面を見いだすことができる。 |  | 1 |
| ４ 比例のグラフ  確認問題 | p.134  ～137 | 比例の関係を点プロットで図に示す  比例のグラフとその形  比例のグラフの特徴のまとめ  比例のグラフをかく  グラフから比例の式を求める | 比例のグラフ | ○比例の関係をグラフに表すことができる。  ○比例のグラフの特徴を理解している。 |  |  | 3 |

② 反比例

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 反比例 | p.139  ～142 | 反比例の意味  反比例を表す式，比例定数の意味  変域を負の数に広げた場合の反比例の関係  反比例の式の求め方 | 反比例する， 比例定数 | ○反比例の関係を式に表すことができる。 | ○反比例の関係をまとめた表から，xとyに関するいろいろな関係を読み取ることができる。  ○反比例の関係を負の範囲に拡張し，関数関係として捉え直すことができる。  ○xとyの関係を表に整理して，変化と対応を調べることができる。 | ○反比例の関係を，変域や比例定数が負の数の場合に広げて考えようとしている。 | 2 |
| ２ 反比例のグラフ  確認問題 | p.143  ～146 | 反比例の関係を点プロットで図に示す  反比例のグラフとその形  反比例のグラフをかく  反比例のグラフの特徴のまとめ | 反比例のグラフ，双曲線 | ○反比例の関係をグラフに表すことができる。  ○反比例のグラフの特徴を理解している。 |  |  | 3 |

③ 比例と反比例の利用

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 比例と反比例の利用 | p.148  ～153 | 比例の関係の利用  反比例の関係の利用  グラフから読み取る |  |  | ○グラフからいろいろな情報を読み取ることができる。  ○具体的な事象を比例，反比例とみなし，式，表，グラフを利用して考察することができる。 | ○比例，反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。  ○比例，反比例を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 | 3 |

１年５章「平面図形」 ＊ほかに，章末で２時間を計上しています。

① 平面図形

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 平面上の直線 | p.158  ～163 | 直線，線分などに関する定義  点と点の距離  角の表し方  点と直線の距離  2直線の平行  直線と直線の距離 | 直線，線分，  半直線，距離，  ∠，⊥，垂線，  交点，*//* | ○平面上の点や直線の位置関係を理解している。  ○記号を用いて，点や直線の関係，角を表すことができる。 | ○2直線が平行かどうかを定義にしたがって判断することができる。 |  | 2 |
| ２ 図形の移動  確認問題 | p.164  ～169 | 三角形の表し方  移動の意味  3つの移動の意味  3つの移動の性質  点対称移動  図形の移動の組み合わせ | 移動，平行移動， 回転移動，  回転の中心，  対称移動，  対称の軸，  点対称移動 | ○平行移動，回転移動，対称移動の意味と性質を理解している。  ○移動前と移動後の2つの図形の関係を理解している。 | ○移動前と移動後の2つの図形の関係に着目して図形の性質や関係を見いだし，説明することができる。  ○図形の移動を具体的な場面で利用することができる。 | ○2つの図形がどのような移動によって重なるかについて，多様な方法を考えようとしている。  ○移動前と移動後の2つの図形の関係について考えようとしている。 | 3 |

② 作図

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 作図の基本  確認問題 | p.170  ～179 | 作図の意味と約束ごと  中点，垂直二等分線の意味  垂直二等分線の作図とその性質  角の二等分線の意味  角の二等分線の作図とその性質  垂線の意味とその作図 | 中点，  垂直二等分線，  二等分線 | ○垂直二等分線，角の二等分線，垂線を作図する方法を理解している。 | ○図形の対称性や図形を決定する要素に着目して，基本的な作図をすることができる。  ○基本的な作図の方法について，図形の対称性をもとに統合的にみることができる。 | ○作図の方法について，図形の対称性をもとにして考えようとしている。 | 5 |

③ 円

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 円 | p.181  ～185 | 円に関する用語  円の弦の性質  円の周の長さ，面積  円と直線，接線の性質  円の接線に関する作図 | 弧，⌒，弦，  接する，接線，  接点 | ○円の弦の性質，円の接線の性質を理解している。 | ○円の対称性に着目して円の接線を作図する方法を見いだすことができる。 |  | 2 |

１年６章「空間図形」 ＊ほかに，章末で２時間を計上しています。

① 空間図形

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ いろいろな立体 | p.190  ～194 | 立体の分類，多面体の意味  角錐，円錐の意味と用語  立体の面の形と数  正多面体の意味と種類 | 多面体，角錐，  底面，側面， 円錐，正多面体 | ○多面体，角錐，円錐，正多面体の意味やそれらの特徴を理解している。 | ○構成要素に着目して立体の特徴を考察し，説明することができる。 | ○立体を多面的に考察しようとしている。 | 2 |
| ２ 空間における平面と直線 | p.195  ～201 | 平面の決定  空間における2直線の位置関係  直線と平面の位置関係  2平面の位置関係  直線や平面の位置関係のまとめ | ねじれの位置，  平行，*//* ，垂直，⊥，交線，なす角 | ○空間において直線や平面がどのように決定されるかを理解している。  ○空間における直線や平面の位置関係を理解している。 | ○現実の世界の具体物を数学的に捉えることができている。  ○空間における直線や平面の位置関係について考察し，説明することができる。 |  | 4 |
| ３ 立体のいろいろな見方  確認問題 | p.202  ～207 | 点と平面の距離  2平面の距離  面や線が動いてできる立体  回転体の意味  投影図の意味  投影図の読み取り，投影図をかく | 距離，回転体，  回転の軸，母線， 立面図，平面図， 投影図 | ○立体を，平面図形の運動によって構成されたものとみることができる。  ○平面図形を回転させてできる立体を，見取図で表すことができる。  ○立体の投影図をかくことができる。 | ○見取図と投影図を相互に関連づけてみることができる。 | ○投影図のよさについて考えようとしている。 | 4 |

② 立体の体積と表面積

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 立体の体積 | p.209  ～211 | 角柱，円柱の体積  角錐，円錐の体積 |  | ○角柱，円柱，角錐，円錐の体積の求め方を理解し，それらを求めることができる。 | ○実験結果から，角錐や円錐の体積の求め方を考えることができる。 |  | 1 |
| ２ 立体の展開図 | p.212  ～215 | 角柱，円柱の展開図と長さ  角錐の展開図と長さ  おうぎ形の定義  円錐の展開図と長さ | おうぎ形，中心角 | ○角錐，円錐の展開図について理解している。 | ○見取図と展開図を関連づけて考えることができる。 |  | 2 |
| ３ おうぎ形の計量 | p.216  ～219 | おうぎ形の弧の長さと面積  おうぎ形の面積を半径と弧の長さを使って求める  おうぎ形の中心角の求め方 |  | ○おうぎ形の弧の長さと面積が中心角の大きさに比例することを理解している。  ○おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 | ○おうぎ形の中心角の大きさと弧の長さや面積にどのような関係があるか考察し，説明することができる。 |  | 2 |
| ４ 立体の表面積 | p.220  ～221 | 角柱，円柱の表面積  角錐，円錐の表面積 | 表面積，側面積， 底面積 | ○角柱，円柱，角錐，円錐の表面積の求め方を理解し，それらを求めることができる。 |  | ○角柱，円柱，角錐，円錐の表面積の求め方を考えようとしている。 | 1 |
| ５ 球の体積と表面積  確認問題 | p.222  ～223 | 球の体積の求め方  球の表面積の求め方 |  | ○球の体積や表面積を求めることができる。 |  |  | 2 |

１年７章「データの活用」 ＊ほかに，章末で１時間を計上しています。

① データの整理とその活用

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ 度数の分布とヒストグラム | p.232  ～240 | データの範囲  度数分布表のつくり方と見方  ヒストグラムのつくり方  度数折れ線のつくり方 | 分布，代表値， 平均値，中央値， 最頻値，範囲，  階級の幅，階級値，度数，度数分布表，  ヒストグラム，  度数折れ線 | ○ヒストグラムの必要性と意味を理解している。  ○データを表やグラフに整理することができる。 | ○データを分析して分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断することができる。 | ○ヒストグラムの必要性と意味を考えようとしている。  ○データの傾向を読み取り，批判的に考察しようとしている。 | 4 |
| ２ データの比較 | p.241  ～245 | 相対度数の求め方と読み取り  相対度数の折れ線の意味 | 相対度数 | ○相対度数の必要性と意味を理解している。 | ○相対度数の折れ線グラフの特徴をもとに，2つの集団のデータを比較することができる。 | ○相対度数の必要性と意味を考えようとしている。 | 2 |
| ３ 累積度数  確認問題 | p.246  ～248 | 累積度数  累積度数分布表  累積相対度数 | 累積度数  累積度数分布表  累積相対度数 | ○累積度数，累積相対度数の必要性と意味を理解している。 |  | ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 | 2 |

② 確率

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **項　目** | **該当**  **頁** | **学習内容** | **用語・記号** | **観点別評価規準例** | | | 時数 |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| １ ことがらの起こりやすさ | p.250  ～253 | ことがらの起こりやすさ  統計における男女の出生比率  確率の考え方の利用 | 確率 | ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解している。 | ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして，事象の起こりやすさの傾向を読み取り，説明することができる。 | ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を考えようとしている。  ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。  ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 | 2 |